

氏名	柴 田 醇
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 210 号
学位授与の日付	昭和42年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	麻疹並びにジステンパーウイルス感染細胞の細胞化学的研究 第1報 主として麻疹ウイルス封入体の性状の研究 第2報 主としてジステンパーウイルス封入体の性状の研究 並びに麻疹ウイルス封入体との比較観察
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 村上 栄 教授 平木 潔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

麻疹ウイルス及び犬ジステンパーウイルスはパラインフルエンザウイルス群に含まれるRNAウイルスと考えられている。しかし、これらウイルスについては細胞内での増殖の場及び増殖の様式については一定の見解がないのが現状である。この実験においては、麻疹ウイルス及び犬ジステンパーウイルスに感染した組織培養細胞に形成される封入体の性状について組織化学的方法を用い追求した。

麻疹ウイルス感染細胞に形成される細胞変性は、線維芽細胞様変化多核巨大細胞形成、細胞質内封入体及び核内封入体などであり、ウイルス接種後3ないし4日目頃より観察されるようになった。そして、細胞質内封入体は各種核酸染色法を総合した結果RNAを含むと推定される結果を得たが、尚ウイルスの増殖の場であるのか否か確定できなかった。核内封入体は細胞質内封入体より遅れて出現し核酸成分を持たないと考えられた。

犬ジステンパーウイルス感染細胞についても細胞変性の出現する時期が麻疹ウイルスのそれよりも7ないし10日遅れて観察されること及び染色法によっては核内封入体の出現が細胞質内封入体の出現と同時であるか、ないしは、早期に出現するという2点を除いて、細胞質内封入体及び核内封入体の性状については麻疹ウイルスの封入体と同様な結果を得た。

(岡山医学会雑誌78巻6号)

論文審査の結果の要旨

本研究は両ウイルスを PS 細胞, HeLa-S₃ 細胞, CS 細胞 (犬腎) その他の培養細胞に感染せしめ, その後 2 時間から約 30 日に亘って感染細胞の変化を特にウイルスの増殖の場, 並びに増殖形式を明らかにせんとしてヘマトキシリン・エオジン染色, フィルゲン反応, メチルグリーン, ピロニ染色を行ない更に RNase 消化試験を行なって検討したもので両ウイルスの感染によって形成される細胞質内封入体はウイルス増殖の素機の形成に関係するとの推測すべき重要な成績を得た。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。